

き忌明と稱し寒中と雖も海水に浴し身體を清めたる後ならでは全く歸宅せざるの慣習あり月經時に於ても月經期間亦同じ。

石川縣

一、妊娠したるときは臨月又は其の一ヶ月位以前に安産を祈る爲め生家より「コロコロ」團子（洗ひ白米粉を以て製したるもの）を婚家に贈るを例とす而

して婚家にては該團子を親戚知己に分與す。  
 一、初産の時は、早きは二ヶ月前遅くも臨月の初めに生家に到り出産の準備をなし出産す。然る後早きは、三週間長きは數ヶ月間保養の上婚家に歸るものとす。而して初生子に限り、産著（紋付）等一切の衣類は生家に於て新調する慣習とす。

兒童の子守唄

内務省

一、北海道

- いふわ〜 (チンチンヨ〜) (此青空ノ)
- いふわ〜 (下ツテキタ)
- づらんけ (イッコ)
- しんだ (イッコ)
- しんだ (湘ニ)
- ばーだ (老婆様が見テ居ル)
- かもし (神様ノ)
- かもし (上カラ)
- いふわ (チンチンヨヨ)
- いふわ (チンチンヨヨ)
- いふわ (チンチンヨヨ)
- いふわ (チンチンヨヨ)
- いふわ (チンチンヨヨ)
- いふわ (チンチンヨヨ)

一、京都府

ねん〜した兒に赤いベツ著せて  
 連れて參いろや外宮内宮。

(左記ハ管下郡教育會ニ於テ調査セル歌曲)

5	—	5	5	7	—	1.	2	1	—	1	—	1	2	1	2	1	6	6	1		
ね	ん	ね	も	り	は					H	の	暮	が	だ	い	—	じ				
1	—	1	1	1	2	1	6.	1	2	1	6	5.	5	1	6	—	1	—	2	—	1
朝	—	の	ね	お	き	は	は	な	ほ	だ	い	じ									

1	2	4	3	3	2	3	2	3	2	1	—	1									
ね	ん	ど	の	お	お	の	た	ね	—												
1	3	5	3	2	1	3	2	3	2	1	—	1	—	1	—	1	—	1	—	2	—
ね	ん	ば	な	い	て	も	こ	の	こ	は	だ	い	—	じ	ね	—	ん	ど			

一、大阪府

(イ) ねんねころいち天満の市よ

(ロ) 舟に積んだら何處まで行きやる

(ハ) 橋の下にはおかめ(鵜)がゐやる

(ニ) 竹が欲しけりや竹屋へ行きやれ

ねんねおねんねおねんねよ

坊やお守は何處へいた

里のお土産何貰ふた

大根そろへて舟に積む

木津や難波の橋の下

おかめとりたや竹ほしや

竹は何でもございます。

坊やはよい兒だねんねしな

あの山越へてお里へいた

でんぐ太鼓に笙の笛。

起り上り小法師に犬張子。

一、(俗謡遊戯ニ關スルモノ)

正月來たら何嬉し

お月様見た様た餅たべて

黒豆見たいな目むいて

割木見た様魚たべて

雪見たいな飯たべて

火燧にあたつてねんねこしよ。

一、神奈川縣

ねれねれよーおころりよー

坊やがねた間にべいたつて

御宮の鳩には豆遣つて

坊やはよい子だねんねんしな。

坊やはよい子だねんねんしな

御眼が醒めたら宮參り

御池の金魚にや麩を遣つて

一、新潟縣

一、お千代の嬢やん何處へ行つた

佐渡の土産に何貰つた

三に笹色の帶貰つた。(佐渡)

船に乗つて佐渡へ行つた

一に張箱一に硯

一、乙女大きなるご江戸へやるぞ

田舎は木綿の襦袢育ち。(長岡、北魚沼)

江戸は縮緬絹育ち

一、埼玉縣

ねんねんよーねんねんよ

坊やのねんねんのその暇に

三つの祝に三ツ身著せ

七つの本身に斷つからは

一つ二つはねて育つ

絲取り機織染上げて

五つの祝に四ツ身著せ

盡せよ世の爲め人の爲め。

一、茨城縣

一、坊やは可愛やお山程

野原通れば千本松

松葉の數よりまだ可愛い。

一、風にくるく風車

乳屋がたたく箱車

婆やの押し出す乳母車

お山で木の數萱の數

千本松原小松原

水にくるく水車

一番綺麗な花車

人を乗せたる人力車

一、群馬縣

ねんねしておきると(御乳)やる

おこめのごはんにとそへて

ねんねんねこのけつに

ひきづり出してもく

ねんねしろかんかしろ

こもりはらくなよいでつらいもの

ひとのきばにたいつめば

おちのおではなおいやなら

やなぎのおはしでさらさらと

かにがはいこんだ

またはいこんだよー

こもりしろ

あめかせふいてもやどはなし

たてよあゆめよとせがまれる。

一、栃木縣

ころく小山の小兒は

母ちゃんお腹にゐた時に

それに耳がお長いの。

なせにお耳が長いの

椎の實櫃の實たべたとて

一、愛知縣

一、守りと云ふもの樂そで辛い

親に責められ子に責られて

人に樂ぞと思はれる。

(御老母)

おばさんどこへいきやる、

おつもてん〜〜あば〜〜。

一、岐阜縣

お山でお山で啼く鹿は

寒さで泣かぬ母呼ばぬ

ねんこんこねやこや。

三升樽さげてお嫁の在所へ孫抱きに

寒さで泣くか母呼ぶか

明日な野山で狩りと聞く

一、山形縣

ねんねしな鐘が鳴る

行けば離宮の乙姫が

夢の浮橋とん〜〜

坊やの來るのみ待つてゐる。

一、秋田縣

こつこつ小山の白犬子

こつこつ子守の帶買へば

やえこゝやえこゝ。

一匹吠えれば皆吠える  
地能く幅よく尺長く

一、福井縣

ねんねこや〜

ねんねが寝た間に

赤いお碗に

白い小皿に

隣りの坊やも

來たらば一所に

おべろこやさいろこや

まゝたいて(飯炊いて)

まゝよそて

どゝそえて(肴添へて)

呼んで來て

たべませう

一、石川縣

ねんねんや

おべろんや。

一、とんとんとろりんとんとろりん

とんとんとろりと鳴る音は

お姫様のお使いか

かち／＼やまの兎さん

狸もおいたをやめにして

寝る子にお守りの腹鼓。

一、寝ねあそばんせ御寶らや

あすは此の子の誕生日

赤飯炊へてとゞ焼いて

お箸は何に箸柳箸。

一、島根縣

一、寝ん／＼ころ／＼濱の石

波に揉まれて淡路島

通ふ千鳥の濱に行く

夢の島には五色濱

玉より綺麗な白の石

星より綺麗な青の石

泣かすに行きましょ夢の島

泣けば千鳥がとんでゆく。

一、愛媛縣

ねんねんころ／＼濱の石ころ／＼

ころんで何處へ行く波に

もまれて淡路島通ふ千鳥の濱へ行く

わたしも行きたい夢の島

夢の島には五色濱

濱より綺麗な白い石

星よりきれいな青い石

鳴けば千鳥が飛んでゆく

泣かすに行きましょ夢の島。

一、宮崎縣

ねんねしよ／＼ねんねこしたら

餅も團子もついて食はしゆ

たゞんこにも乗せて観音どんの阪を

のんぼりくんだり引き廻はす。

一、鹿兒島縣

老父さん老母さん長生しやい

米は安くならう家計も豊なろう

辨天芝居も亦ござらう。

一、沖繩縣

一、『姉がく守い立てらば

下駄小ん草履小ん履さやー

支那日本ん遣らさやー

瓦葺家の嫁なさやー』

(譯) 姉さんが守り育てたなら下駄も草履も履かすよ支那や日本にも遊學させん瓦屋(良家の意味)のお嫁に遣らうねんねしなし泣くなよ。

一、『お月様よお日様よ

我ふどうわち

來年の六月ねー

うたびみせうり

馬小牛小買ふて差上やびら』

(譯) お月様よお日様よ私を育て、下さい來年の六月には馬も牛も買つて差上げますよ。

一、『思童賺ち今ど思知ゆる

昔我れ守たる人の情』

(譯) 子供を守り育て、初めて知りました昔我を守り育て呉れました其の人の情を

一、『天の群星や數めは數もりしが

親のゆし事や數めやならん』

(譯) 天の星は數へたら數へられぬ事ないが兩親の教訓は數へられぬ程多い。